

生活改善実績交換会 農村婦人活動の輪を広げよう



レクリエーションダンスの講習風景

進協議会と北蒲原農業改良普及所が主催したもので、農村婦人活動状況の相互交換などを目的にしたものです。

会場には地元豊栄市をはじめ、二市六町村から約百八十人の婦人が集まり、八人の体験発表がありました。この中で、新井郷の橋本二三子さんは「このごろ思うこと」と題し、家計簿をつけてみての感想を述べました。

発表会のあと、婦人たちの手づくり品、農産物、不用品などのチャリティーバザール、レクリエーションダンスの講習などが行われ、会場には熱気があふれていました。また、チャリティーバザールの収益金四万一千六百円が、北蒲原農業改良普及所（中川勝実所長）から市の社会福祉協議会へ寄付されました。

十一月十二日、中央公民館で、農村生活改善活動実績交換会が開催されました。十回目のこの交換会は、新発田農業改良普及事業推

ブラジル移住の谷沢さん 新妻連れて里帰り

昭和五十五年一月「農業開拓」の夢を抱いてブラジルへ移住した谷沢喜巳雄さん（早通出身、三十一歳）の帰国歓迎会が、十一月十九

日開かれました。歓迎会は、県海外移住研究会、市などの主催によるもので、約二十五人の関係者が集まって行われ

たものです。谷沢さんは今年八月現地で結婚したばかりで、新妻のきよ子さん（福島県出身）と一緒にの里帰りで。

帰国報告の中で、谷沢さんは次のように述べました。「現在、ブラジルのパラ州第二トメアスという所で五十ヘクタールの農地を耕作。カカオ、天然ゴム、コシヨウなどを栽培しているが、経営は順調にいつています。幸い自分は結婚できたが、日本人移住者の嫁不足は深刻な問題です。ブラジルへ

行きたいという女性がいたら、是非、推薦して下さい」

奥さんと二人で第二の人生を歩き始めた谷沢さんは、十一月二十六日、日本を後にしました。



丹精込めた力作

— 市老人作品展 —

9回目にあたる市の老人作品展が、11月17日と18日の2日間、岡方出張所で開かれました。

この作品展には、150人から190点の傑作が寄せられ、会場を訪れた市民は、書、絵、手芸品、盆栽などの力作に魅せられていました。

自治会 (3) 大迎

待望の児童公園が完成

大迎自治会は五十世帯で、岡方地区のほぼ真ん中に位置しています。今年七月に児童公園が完成しゲートボールコート、遊具などが設置されました。



ゲートボールの練習に精を出す老人クラブの皆さん

円かかりました」と自治会長の五十嵐仁作さん（六三歳）児童公園は、通称「下の池」と呼ばれていた自治会の共有地を埋め立てて造ったものだそう。「ゲートボールコートは、天気の良い日はほとんど利用されています」とのこと。

また、ブランコ、すべり台、鉄棒などの遊具のほか、便所も設置されています。一方、大迎と大久保両自治会の間を通る予定の「大阿賀橋」については「一刻も早く完成するよう望んでいます」と五十嵐自治会長。

大阿賀橋は、現在、取付道路ができており、今年度中に橋脚一基が完成する計画です。県の人の話では、現在の予算規模だと完成までには十年位かかりそうだと言うことです。しかし、地元をはじめ亀田町、横越村など関係者一丸となって、早期建設を働きかけていくつもりです。

十一月四日 職員採用第一次試験は、事務職二人に八十一人、調理手一人に七人が受験しました。少数の採用なのに、一生の運命をかけて真剣にとりくんでいる顔を見て、「心苦しい」とは試験委員の感想です。それだけに委員会の厳正な審議を経て採用を決定します。

市員の日記

十一月五日 北陸地区治水大会で、福島潟環境保全対策協議会が、新潟県の団体ではただ一つ表彰されました。「不心得者が投げ捨てたゴミを、汗を流して拾うバカらしい

仕事。これをバカらしいと思わず汗を流すのは最も尊い仕事」といっても私が言う、福島潟クリーン作戦が認められたものです。

十一月九日 県庁の各課長や部長を歴任し、去る四月病院事業管理者、病院局長になった織原義男さんが「私も豊栄市民になりましたのでよろしく」と挨拶にきました。住宅供給公社の柳原団地に住宅を新築して来住したものです。

十一月十日 新潟交通のバス路線変更の通告を受けたことについて別に特集してあります。国鉄以上に採算を重視する営利企業ですから、赤字線廃止の理由はよくわかれます。しかし、住民生活を考えると、葛塚新発田線、岡方新潟線の存続はなお交渉が続けます。これは別に、月岡から停車場山倉線、競馬場線を利用して松浜間のバス路線新設を要望しました。

石井耕一

十一月十七日 新聞記事が小さいのですが、第二シベリヤ鉄道が完成したことは、歴史的なことです。日露戦争のころ既にあつたシベリヤ鉄道一本が、八十年ぶりに二倍になるのです。豊栄地域にある新潟東港の専用ふ頭から定期船に積載したコンテナが、ソ連の首都地域、中近東、北欧へ、迅速、大量に輸送され、貿易拡大に役立ちます。人跡未踏の永久凍土地帯を走り、無尽蔵の資源を開発搬出することにより、日本の生産増強に大きく貢献します。阿賀北四青年会議所主催の「阿賀北の新たな出発」と題するシンポジウムに、私はこのように述べました。これを豊栄市はどういふかすかは、二十一世紀をめざす青年の課題です。